

みずぐさんの歌は、仙崎のやさしい人々とともに、仏さまの心をいて下さる心に残る旅となりました。

題材法話

今年もこうして除夜会を迎えることが出来ました。有り難いことでございます。

さてみなさん、「お浄土がどこにあるのか」をご存じでしょうか？

○**十万億仏土の彼方**
浄土三部経の一つ『阿彌陀經』には「これより西方

十万億の仏土を過ぎた彼方という」と、書かれています。

お浄土は「十万億仏土の彼方」にあるのです。は、どこからいって、何年かというところで、十年ほど前に、当時幾何学史学会の會長であった山内俊平という先生が、計算を試みられたそうです。

その山内先生は「十万億仏土」の「土」を、仏教で

千世界は小世界十億個分に相当する」と計算され、銀河系の星と星との距離などから、小世



界を三・三五光年の間隔で並んでいると仮定されまし

た。その結果、「十京光年」と算出されたそうです。

「一光年」というのは、光が一年間に進む距離で、九兆四千六百キロになりま

す。「京」は「兆」の上の単位で、億の一億倍になりま

す。したがって「十京光年」というのは、光の速さの乗る距離ということになり

ます。

しかもお浄土は「その十萬億の仏土を過ぎた彼方」にあるというのですから、

山内先生の結論は、「どんなにもがいても、行けない距離です。日々精進して来

世のこととは仏様にお任せします」ということだったそ

うです。

○**ここを去ること遠からず**
とところが一方で、同じく

「観無量壽經」には「阿彌陀仏去此不遠」(「あみだぶつ、ここをさること遠からず」と



あります。

私たちが遠くはないところにおられるのだ、と仰るの

です。

「遠い彼方でもあり、すぐそこでもある」というのは一体どういうことなので

しょうか。

○**眞実の世界**
仏さまの世界は、私たち

の知識や考えで分かる世界ではありません。私たちの思考を超えた世界なのです。

たとえ、今ここに、私たち20人ほどの者が集まっ

ており、みんな親しくさせて頂いています。

ですが、20人全員がすべてを分かち合っているか

と、いいですか、それはとても無理ですね。

それぞれが考えていることを、すべて理解しあえるこ

となど、はできません。自分のことさえも分からなく

なる時があるくらいですか

ら。

です。から悲しいことに、ともすれ



す。

ところが、「仏さまの世界」は、悟りの世界という

のは、すべての世界であり、

ことがすべての世界において調和

がとれた世界です。凡夫の世

界からとは認識できません。

世界では「十万億仏土の彼方」と示すのは、いつし

て距離的な遠さをいって

るのではなく、私たちがい

識したことも認識できない

世界であることを説くのだ

と思えます。

○**阿彌陀さまの存在**
一方、阿彌陀さま側から

は、眞実の世界から凡夫

で、眞実の世界から見通すこと

が、眞実の世界から見通すこと